

子育て支援のための知識映像コンテンツの構築と評価

江口あい* 石川翔吾** 大谷尚史*** 桐山伸也* 杉山岳弘* 北澤茂良* 竹林洋一**

静岡大学情報学部* 静岡大学創造科学技術大学院** 静岡大学大学院理工学研究科***

1.はじめに

少子高齢化が進行し、幼児の健やかな成長への関心が高まっている。幼年期の学習や家庭環境が重要視され、幼児に関する研究が盛んになった。それに伴い、育児に関する情報 Web コンテンツは、種類、量ともに豊富になり、情報の入手は容易になったが、情報の氾濫が深刻化し、多様な育児環境に適用可能な信頼できる知識コンテンツの重要性が高まってきている。

そこで筆者らは、子育て支援のためのコミュニティサイトを開設し、育児に関する知識のコンテンツ化を行っている。社会的・文化的背景に基づく子どもをとりまく環境や、子どもの行動や思考の発達などの豊かな知識を織り込んだ映像コンテンツの構築を進めている。本稿では、子育て支援を目的とした Web サイトで配信する知識映像コンテンツの構築方法と評価について述べる。

2. 子育て支援サイトの概要

教育・研究・医療などの現場で子育てに携わってきた専門家達が、複数の視点から育児について解説する映像

コンテンツを主体に、視聴者が自らの子育てのあり方や方向性に基づいて育児の問題を考える支援を目的とした子育て支援サイト¹⁾を構築した(図1)。個別のケースでの対症療法的な回答や解説ではなく、さまざまな問題の対処法とともに、子どもへの影響や心の動きなどを盛り込んだ。また、個別質問の受付窓口を設け、視聴者の育児体験や育児に関する知識を書きこむことができる。

3. 知識映像コンテンツの構築

3.1 専門家回答コンテンツ

信頼できる3人の専門家の協力を得て現場のデータから得られる知見を集め、トピック毎に整理し、一般の視聴者に分かりやすいコンテンツを制作した(図2)。

- ・幼児教育のベテラン講師 坂根信一氏
各家庭の子育てに対する考え方や目標に基づいて、様々なケースに合った対処法などを紹介する。
 - ・小児科医 小西行郎氏
発達障害やアレルギー体質、反抗期などについての解説を行う。
 - ・玉川大学リベラルアーツ学部 佐藤久美子氏
言語コミュニケーションという視点から、親子同士のインタラクションや子どもの発育について長年の研究成果をもとに解説する。
- このように子育てに関連の深い分野の専門家による知見を豊富にそろえ、内容的に関係のあるコンテンツを相互に関連づけて構造化し、同じ問題について複数の観点から閲覧可能にした。

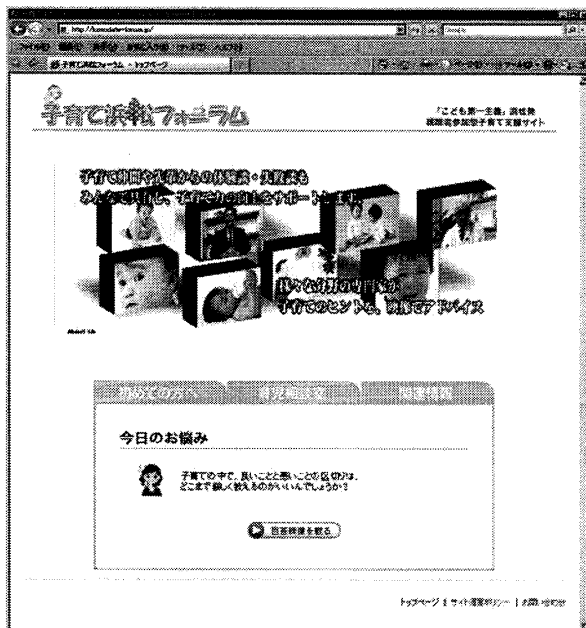


図1 子育て浜松フォーラム支援サイトトップページ



お悩み相談の回答映像

言語コミュニケーション講座の説明
子どもの言語習得の過程
英語教育って
早いほどいいの?
日本語と英語学習の相関
親の話下手は
子どもへ影響する?
関係ない状況での
「バイバイ」って...
年齢による子どもの接し方
子育てを楽しむ秘訣



関連する悩みを相談

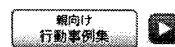


図2 専門家回答コンテンツ

Construction and Evaluation of Video Knowledge Contents
for Child Caring Support

AI EGUCHI*, Shogo ISHIKAWA**, Naofumi OTANI***,
Shinya KIRIYAMA*, Takahiro SUGIYAMA*,
Shigeyoshi KITAZAWA*, and Yoichi TAKEBAYASHI*

*Faculty of Informatics, Shizuoka University

**Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University

***Graduate School of Science and Engineering, Shizuoka University

3.2 行動事例コンテンツ

静岡大学では、2005年6月から週1回、構内で幼児教室を開催し、親子共学型の授業と専門家による育児相談を実施している。幼児教室の授業や育児相談の様子を、マルチアングルによるカメラ映像と、子どもに着用させたウェアラブル型マイクによる音声で収録している²⁾。収録した映像から育児相談に関する行動事例を抽出し、解説を加えたコンテンツを提供している。視聴者は、実際の行動事例と照らし合わせながら、子どもの反応や子どもへの接し方を考えていくことができる。

3.3 対話型コンテンツ閲覧システム

Web上の映像コンテンツでは、サーバから視聴者へ一方向的な配信となるため、視聴者の欲しているコンテンツを提示することは難しい。そこで、視聴者と対話を通じて、視聴者の欲している情報を提供する対話型映像コンテンツ閲覧システムを開発した(図3)。視聴者が、再生中の映像の上に表示した吹き出しをクリックすることで、その吹き出しの内容に対する回答映像に切り替わる。つまり、構築したコンテンツは映像再生機能を基に、視聴者のアクションに応じ内容を対話型で変更する機能を有する。これにより、視聴者は、専門家のカンファレンスを受けるような形で個々の問題を解決することができる。

幼児教育講師の回答コンテンツでは、多くの相談がされることが想定される。そこで、構築した対話型映像コンテンツ閲覧システムにより、頻繁に寄せられる「友達を叩く」、「叱っても言うことを聞かない」、「兄弟げんか」の3つの相談を題材に、対話型のコンテンツを作成した。システムを介した育児相談の末、悩みが解決されなければ、質問ページや関連ページへ誘導する。

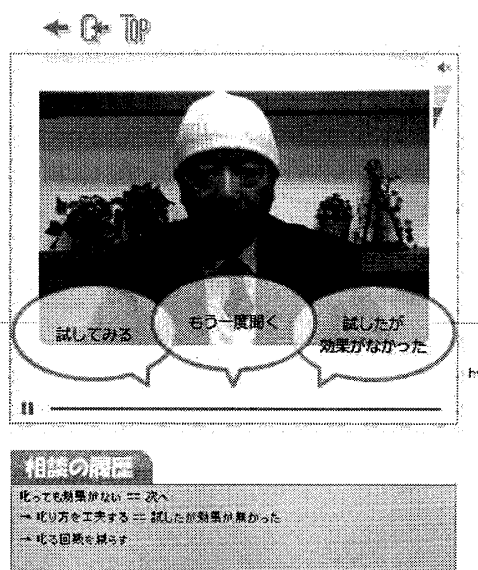


図3 対話型の専門家回答コンテンツ

対話型映像コンテンツによって、視聴者が積極的にシステムに働きかけることで欲している情報へのアクセスが容易になる。

4. 評価

2009年11月から開設した子育て支援サイトの2010年1月15日現在のアクセス数は1,253件であり、サイト開設以来、順調に増えてきている。

また、構築したサイトの視聴評価を11月、1月の2回にわたって実施し、子育ての経験をもつ22名にアンケート調査を行い有効性の検証を行った。「サイトを利用することで悩みが解決された」と回答したのは14名、「今後も利用したい」と回答したのは16名で高い評価を得た。コンテンツについても、操作性や対話的に視聴できる点が利点として評価された。また、自由記述からは、『対話型映像コンテンツは楽しめた』、『子育て理念が分かりやすく提示されている』、『専門家コンテンツもとても内容が充実している』、『関連する悩みを相談できるのがよかった』といった意見を得た。一方で、『映像を見るのが面倒』、『もっと効率的に必要な情報にアクセスできるようにしてほしい』などといった今後の改善につながる意見も得られた。

5. まとめ

子育て力の向上を支援するための育児知識の映像コンテンツを制作した。信頼できる複数の専門家による映像メッセージ、親子共学幼児教室の映像事例を基軸に子育ての悩みを多面的にとらえられる知識映像コンテンツを実現した。対話型でコンテンツを視聴できるシステムを導入し、知りたい内容を把握した上でコンテンツを提供する仕組みを実装した。アンケートの結果、Webサイトの内容と視聴方法に関して高い評価が得られ、コンテンツの有用性が示された。

謝辞

本研究では、総務省戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)地域 ICT 振興型研究開発「マルチモーダル幼児教室を機軸とする成長する子育て支援コンテンツとヒューマンネットワークの実現」の一環として行った。

コンテンツ制作にご協力いただいた、坂根信一氏、小西行朗氏、佐藤久美子氏に、深謝いたします。

参考文献

- 1) 子育て浜松フォーラムWebサイト：
<http://kosodate-forum.jp/>
- 2) Kiriya, S., et al.: "A Largescale Behavior Corpus Including Multi-Angle Video Data for Observing Infants' Long-term Developmental Processes", The Ninth International Conference on Multimodal Interfaces 2007, pp.186-192 (2007).